

# 亀岡クールで農業起耕式

## 大規模な太陽光発電

一般社団法人日本クルベジ協会(柴田晃会長)、国内最大規模となる農地太陽光発電設備が竣工したことで、今後の農業団体の共同主催による「亀岡クール農業起耕式」が4日、亀岡市土づくりセンター(亀岡市農業公

抜擢する日本クルベジ協会・柴田会長



社)西の農地で行われた。国内最大規模となる農地太陽光発電設備が竣工したことで、今後の農業団体の共同主催による「亀岡クール農業起耕式」の一層の強化と進展を図っていくとともに、地域農業の発展が祈念された。平成20年11月から立命館大学、龍谷大学、京都学園大学、亀岡市と地元農家、協賛企業の協働・連携により、世界でも類を見ない炭素埋没農法によるCO<sub>2</sub>削減・地域開発を目的とした「亀岡力

」ボンマイナスプロジェクト」が進められてきた。同プロジェクトは環境保全ブランド野菜(クールベジ)の研究開発を基軸に、人口減少・高齢化による担い手不足、数々の地域課題の解決による持続可能な地域社会システムの構築を目指している。日本クルベジ協会の協力のもと、亀岡市内の農業振興地域で農地太陽光発電システムが設置された。

同プロジェクトの発足以来、すでに250トンのCO<sub>2</sub>が削減されている。毎年国内外からの視察団が訪れるなど世界的なモデルとして注目を浴びており、本設備の稼働



④起耕式の様子。⑤太陽光発電設備の下で付加価値を高めた農業生産を行う

で年間256トンのCO<sub>2</sub>削減に貢献できるとしている。太陽光発電設備での売電益の一部は、クールベジブランドの強化・発展のためのサポートに使われ

る。同プロジェクトのポ

は「本設備は今後20年以

業生産のみならず、販売を

好循環モデルとなるよう

2016年(平成28年)8月22日

農経しんぽう